

日本共産党 和歌山市公議員

ひめだ高広ニュース

NO. 1099
16.4.19

九州地震 震災救援基金にご協力を

4月14日(木)熊本県で震度7の地震が発生し、その後も連続し、16日(土)未明には阪神・淡路大地震に匹敵する地震が起り、熊本・大分県で大きな被害が出ました。その後、余震も続き、大勢の方が避難生活を強いられています。

日本共産党和歌山県連盟と北部地区委員会が、18日(月)17時からJR和歌山駅前で、熊本・大分県の地震被害者の救援基金を呼びかけ、市議員から中村あすこ、松坂みち子議員と私、ひめだが参加。若い方から高齢者まで、多くの方に賛金していただき、1時間で6万2381円集まりました。

3万円の臨時福祉給付金とは

高齢者向け年金生活者等一支援臨時福祉給付金について

「なにがなんでも、このお金のことを」

「なにがなんでも、このお金のことを」

「なにがなんでも、このお金のことを」

「なにがなんでも、このお金のことを」

て、問い合わせがありました。この給付金はコアベリミクスによる貸金引き上げの恩恵が及びにくい低所得の高齢者を支援し、H28年度前半の個人消費の支えの一環として支給する『』市のホームページよりということ。

対象者は昨年度の臨時福祉給付金の支給対象者で、27年4月1日以前に住まれた方です。(住民税非課税世帯の本年度末り来年3月までの65歳になる方が対象になります)課税者の扶養となっていない方や生活保護受給者には支給されません。

3万円です。申請が必要で、4月25日(月)以降に市から支給対象の可能性のある方(個人あて)に申請書を送付されます。その申請書には返信用封筒が同封じ

「問い合わせ先」臨時福祉給付金課コールセンター
073-435-1070

今週のフツの人々

(その45)

帰りは、こわい行きはよいよい、帰りはこわい...と泣きそうになりながら紀の川の橋をバイクで下り上りしました。先週の土曜日、夜の9時半に暴風警報が発表されました。日曜日の早朝配達時には、風に舞い上げられた砂が顔にあたるのが何度かありましたが、そう苦勞せず普通にバイクで走りました。日曜日は、新日本スポーツ連盟の大会で、つじが丘ニアミスコートまで行きました。何人かの方に「大丈夫だった?」と聞かれましたが、パラパラ降った雨以外さほど感じることはありませんでした。結局、大会は暴風警報に飛ばされました。帰りは向かい風でした。そして冒頭述べた場面になるのです。右前方、海からの強風で欄干に何度もぶつかろうになったのです。暴風警報、なめたらあかん。



ひめだ高広

伏虎中学校跡地活用基本構想

伏虎中学校跡地活用基本構想(跡地活用構想)と市民会館構想(という冊子)A4版76頁)が市から届きました。尾花市長は伏虎小中一貫校建設後の伏虎中学校跡地に新しい市民会館と専任委員部誘致の意向です。市議会では、常任委員がまたがってこのことから特別委員会設置の動きも

市民図書館の基本計画

教育委員会から和歌山市民図書館基本計画(A4版176頁)が、新しい図書館を建てるに当たり、この二つの計画について意見を述べてください。誌

知恵を貸してください。

の配置や市民アンケート結果、事業運営方式などが書かれています。このような図書館をめざすのが、利用の仕方でも市民の意見が真逆のものも多数見られます。んでいただける方は、ひめたまでご連絡ください。

日本共産党

政治を動かす力になる

熊本地方を中心に九州で相次いでいる大規模な地震、深刻な被害に胸が痛みます。被災されたみなさんに心からお見舞いを申し上げるとともに、被災者の救援・支援に全

力を尽くします。現在稼働中の(内原発)の不安、本場に大丈夫なのか」という声が多く聞かれます。新宮市の2カ所が開いたついでには、2カ所とも参加者から神神半島(那智勝浦町)で原発をつくら

安心がある「子どもが(原発中止させて)ありがとう」と言ってくれたなど。一人一人が立ち上がり、声をあげることが政治を動かす力になることを確かめ合うついでになりました。



坂口 美子 (参院選 学区)

潮流

(2016.4.17日刊)

九州を東西に横断する「大分-熊本構造線」。東の別府湾から西の島原半島にかけて短い活断層が数多く分布しています。この地域は内陸型地震の危険度が高いといわれてきました。阪神・淡路の大地震に匹敵する16日未明の地震は被害を及ぼし、山肌が崩れ落ちた南阿蘇村の土砂災害や大橋の崩落は規模のすさまじさを表しています。建物が次々と押しつぶされ、増えつづける死傷者。一刻も早い捜索と救助を▼熊本の地震は

いっしょに高まっています。揺れも収まらないなか、身を守るのが最優先です。災害が進行しているいま、拡大を防ぐ対策に政府は力を注ぐべきです▼多くのプレート(岩板)が重なり合っている。モザイクのようにつくられた日本列島。地震の激しい変動は、全国に無数の断層を形成してきました。プレートがずれ動く地震も、活断層による地震も、どこでも起きる可能性があります▼日本は地震の活動期に入った。という専門家の声も多い。これまでの防災は、いつも災害を追い付けてきました。地震や津波、噴火

。私たちが経験や知識によってそこに備える国づくりに力を使います。人類のためだけにやるのではない。地球と自然にたいする謙虚さを忘れない。

赤旗

毎日の市民と共闘するしんぶん 日刊紙 34077日毎